

あいち多文化共生タウンミーティング 2019@名古屋 開催結果報告書

2019年9月28日（土）、あいち多文化共生タウンミーティング 2019@名古屋を開催しました。今回のタウンミーティングは、東海日本語ネットワーク（※）が主催し、同会場において隔月で実施している「技能実習生と日本語教室」と多文化共生推進室とのコラボ企画として実施しました。休日にもかかわらず、64名の参加者の皆様にお集まりいただきました。開催結果を以下にまとめましたので、御覧ください。

※東海日本語ネットワーク・・・東海地域（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）を視野に活動するネットワークとして、1994年6月の設立総会で正式に発足。日本語を母語としない人の日本語学習及び交流活動を、営利を目的とせず支援している団体及び個人の相互交流、情報交換を促進することにより個々の日本語学習支援活動の充実を目指すことを目的とし、活動している。

開催概要

テーマ 企業や行政と地域の日本語教室の連携を考える

場所 あいち NPO 交流プラザ会議室 （名古屋市東区上堅杉町1 ウィルあいち2階）

日時 2019年9月28日（土） 午後1時から午後4時まで

当日の流れ

1 基調報告

テーマ 「日本語教育に関わる新たな展開と愛知県の地域日本語教育の体制整備について考える」

報告者 尾崎 明人 氏（名古屋外国語大学名誉教授）

2 パネルトーク

コーディネーター 大橋 充人 氏（地域日本語教育コーディネーター）

パネリスト 太田 雅隆 氏（有限会社愛知国際教育センター 代表取締役）

尾崎 明人 氏（名古屋外国語大学 名誉教授）

鈴木 勝代 氏（東海日本語ネットワーク）

各務 元浩 （愛知県民文化局多文化共生推進室 室長補佐）

1 基調報告

はじめに、多年にわたりこの地域の日本語教育に携わっていらっしゃる尾崎氏を講師に迎え、本年6月に施行された日本語教育推進法など、最近の日本語教育をめぐる国の動きを踏まえ、お話しいただきました。



2 パネルトーク

後半は、前半の基調報告を踏まえ、企業、地域の日本語教室、行政と異なる視点からそれぞれのパネリストの方々にお話しいただきました。参加者から事前にいただいた質問をもとにパネリストが意見交換をし、会場にいる参加者の皆様とディスカッションをしました。「行政主導でない日本語教室は、会場確保に苦労している」という意見が挙げると、パネリストからは「公が管理する公民館等だけでなく、企業の空き会議室や公営住宅の集会場なども利用できないか」「企業には、企業内のルールや安全確保の課題があるので難しいのではないか」等の意見が出されました。これを受けて参加者から、「10年以上やってきた団体の歴史を考えると、学習者の生活する場所に会場を見いだすのもいいかもしれないが、それ以上に、団体はこれまでずっとやってきた場所で続けるということも大切にしたいと考えているのを分かっていたきたい」「区役所等、行政の会議室が使えるとありがたい」等の意見が出るなど、異なる立場との連携の可能性について話し合われました。会場アンケートでは、「立場が違うとこんなに意見が違うのかと驚いた。歩み寄るのは大変なことだと思った。」という感想もありました。

最後に、パネリストからディスカッションを終えて、一言ずつご発言いただきました。

(尾崎氏)

日本にやってきた技能実習生や特定技能1号の方達は、それぞれに夢や希望を持ってきている。私たちが多文化共生を考える際は、日本に来てもらった人たちが、何に不安を感じている、どこで苦しんでいるのかということをも気にかけて上で、議論をしていかなければならない。

昔、浜松に住むブラジルの方に、「日本語が分からないのは大変だね」と言ったら「私は別に日本語が分からなくても大変でも不幸でもないよ。なぜそんな風に言うの。」と言われてぎょっとしたことがある。これは、自分が勝手に“多文化共生というのはこういうことだ”と日本人の視点で勝手に思い込んでいたということの現れである。例えば、日本語の勉強をしたくない、しなくてもよいという人はいると思うし、それはそれでいい。ただ、勉強したくても、時間がない、場所がない、ゆとりがないという人に対しては、最大限その場をつくるというのが、本年6月に施行された日本語教育推進法の本質だと思う。

問題は「時間」だと思う。企業で働く外国人に時間がないというのはよく言われる話である。パネリストの鈴木さんが、「企業の中に日本語教室を作っていただきたい」と話されていた。会場の中にも、「企業内で自分が日本語を外国人従業員に教えている」という人もいたがこういった考えは素晴らしいことだと思う。企業内で、日本人従業員と外国人従業員が、週に1回でも仕事を離れて日本語を勉強する場を作るというのが、もっと広がっていけば嬉しい。そういう場を作りたいと思ったときに、企業内に人手が足りなかったり、あるいは情報や経験がないので共有したいと思ったら、地域の日本語教室に声掛けしていただいたりということができると思う。したがって、私が今後の市町村に期待することは、自治体の中の日本語教室と、外国人を雇用する企業や監理団体、支援団体等が集まって、今日のような話を率直にするということである。そのような取り組みをすることで、企業の中で、なんとか日本語を勉強する場を作るということを戦略的にやってもらえればと思う。

また、企業に勤めていない外国人の方や、企業ではなく自営業等で、教室に来られない方達に対しては、その方の自宅に出向いたりすることも考えられる。子育て中の方であれば、子育て中の方達のグループを立ち上げてもらって、そこに出向くこともあるかと思う。

他にも、初期レベルの方々の教室には、バイリンガルの先生がいないと長続きしないことがあると思う。こういう場合は、既に日本に長く暮らしている方が同国人のネットワークに入ってサポートできるような財政支援が有効であると思う。ボランティアではなくて。

大切なのは、来日して早い段階で日本語が勉強できる仕組みをきちんと整備することが重要だと思う、今の日本では、日本語を勉強しなくても生きていってしまえるということがあるので。2017年に外国人県民に対して愛知県が行った調査によると、「日本語が話せますか」という質問に対し、「できる、だいたいできる、少しできる、できない」という4択で、「少しできる、できない」を合わせると30%であった。30%ということは、5000人いる市であれば、1500人は日本語を話すのがおぼつかないということの意味する。それを放置するのはやはりだ

めだと思う。したがって、企業に勤めている人、そうでない人、両方含めて、なんとか方向を見つけていただければと思う。

(太田氏)

本日は、直接企業として外国人を受け入れている立場にはないが、日々の実習生監理団体や日本語学校の業務の中で、実習生を受け入れる企業と関わる場で感じることをお話しさせていただいた。日本語教室に来ている実習生はおそらく、意欲があり優秀な方だと思う。一方で、日本語教室に来ていない実習生がかなりの数いると思う。そういう方達の存在を常に感じているので、日本人と外国人が本音でコミュニケーションするにはまだまだ先が遠いなということ、この仕事を長く続けていて常々感じているところである。

そういった足りない点を行政の方に手伝っていただきながら、各関係機関と連携することで解消する仕組みができればいいと感じる。また、日本語学校や監理団体はお金をもらっている立場で、責任を持って取り組むべきところである。今までの経験等を踏まえ、これまで以上に、地域の日本語教室や企業や行政の皆さんと情報共有や協力関係を築いていきたいと思う。



(鈴木氏)

私が知っている技能実習生は、目的を持って日本に来る。彼らはプライドを持っている。国を出るときに、たくさんいる仲間の中から選ばれて日本に来たからである。以前、今年の10月に母国へ帰る実習生と話をしたとき、「国に帰って、日本に行って良かったと友達に聞かれたら、どう答えるの?」と聞いたら、「ぜひ日本に行ったら良いよと言う。自分の会社はすごくいい会社だった。日本人の社員も本当にやさしく、友達にもそういう経験をしてもらいたい。」と言ってくれた。私は、その人だけが特別ではないと思う。日本で楽しかったことを、母国に帰って伝えてくれることを、私たちボランティアは願っている。また、日本語教室でボランティアをする中で、実習生から、日本人がもう忘れてしまった“思いやりの心”を教えてもらっている。そういう素敵な人たちと出会えることは、私個人としてとても素晴らしい経験になっている。こういう日本語ボランティアをしている中で得られる喜びを、私は一般の日本

人の方にまだ伝えられておらず、どうやったら地域の人たちと共有できるだろうか、というのが今の私の課題である。どうしていったらよいのか、今後も話し合っていきたい。

アンケート結果(一部抜粋)

※回答数 39 名

1 このタウンミーティングを何で知りましたか。(複数回答有り。)

チラシ	7
県のホームページ	5
facebook	1
知人からの紹介	8
メール	17
その他	1
無回答	0

【その他】

TNN,TNN お話を聞く会,県からの送付,名古屋国際センター,ボランティア内での情報共有にて

2 基調報告の感想をお聞かせください(一つ選択)

とてもよかった	19
よかった	14
ふつう	3
よくなかった	1
全くよくなかった	0
無回答	2

2-1 感想の理由をお聞かせください。（複数選択可）

活動を進める上での参考になった	17
これまで知らなかった話を聞くことができた	24
聞いた事がある話ばかりだった	3
つまらなかった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	1
テーマについてもっと知りたいと思った	3
多文化共生社会づくりについて知識を深めたいと思った	10
その他	3
無回答	3

【その他】

わかりやすかった。

- ・もう少し時間があるとよかった。
- ・資料を読んでいる時間がほとんどであった。

3 パネルトークはいかがでしたか？感想をお聞かせください（一つ選択）

とてもよかった	15
よかった	16
ふつう	5
よくなかった	1
全くよくなかった	0
無回答	2

3-1 感想の理由をお聞かせください。（複数選択可）

活動を進める上での参考になった	20
これまで知らなかった話を聞くことができた	19
聞いた事がある話ばかりだった	3
つまらなかった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	4
テーマについてもっと知りたいと思った	0
多文化共生社会づくりについて知識を深めたいと思った	8
その他	9
無回答	1

【その他】

- ・ 企業というより、監理団体がずいぶん利益を得ているということ。

- ・ 行政の方の説明で、グラフなどは見て分かるので、説明は省略してもっと生の声を聞いたほうがよいと思いました。
- ・ テーマに興味を持って参加しましたが、それに関する内容はありましたでしょうか。開始2時間がもったいなかったです。
- ・ 尾崎先生が最後に話されたことが、一番聞きたい知りたいことでした。今後の課題ということだと感じました。
- ・ 危機管理という新しい課題を知った。尾崎先生が企業と資金の面で監理団体で話し合う場。人を動かす、両方の面で話し合っ欲しい。県で取り持ってほしいという話に共感できた。
- ・ 鈴木さんの報告が心に響いた。
- ・ 立場が違ふとこんなに意見が違ふのかと驚いた。歩み寄るのは大変なことだと思った。
- ・ 話の内容が技能実習生中心だったので、期待していたものと少し違った。企業に関わるのは技能実習生のみでなく、帯同している家族のことなど広義の意味でも検討すべきだと思った。もう少し上位レイヤーでの話が聞きたかった（課題認識や共有）
- ・ 企業側の話聞くことができよかったです。
- ・ トラブルの元になるので、（自分の会社の技能実習生を）ボランティアの日本語教室に行かせられないという発言にショックを受けました。技能実習生は労働力としか考えていない気がしました。同じ人間として考えているのかどうか、、、。悲しくなります。
- ・ 長い年月ボランティアで外国人のための日本語教育をしてくださっている団体の方の御発言、重いと思いました。もっと敬意を持ちたい/持ってほしいと思いました。

4 今後、今回のようなタウンミーティングでテーマとしたいこと、やりたいことなどがあれば教えてください。

- ・ 「こども」「一般」「技能実習生」の日本語教室の棲み分け「ボランティア」「プロの教師」「地域コーディネーター」今後どうなっていくべきか。うちのボランティア教室では「技能実習生」としてではなく「エンジニア」として直接雇用されている人及びその家族（妻・子）が学習者としてどんどん増えている（同じ会社で20名ぐらい）
- ・ 尾崎先生の話は分かりやすく、現状を知ることができ、参加してよかったです。企業側の話もよかった。
- ・ 企業の技能実習生監理団体、日本語学校、各外国人コミュニティの代表の方々なども参加できる話し合いの場があると良いと考えた。
- ・ 今日参加の団体+教育（学校、教育委員会）のミーティングがやりたい。
- ・ 行政、議員、企業、監理団体、派遣会社の方の参加を呼び掛けて、会を催すことが必要だと思いました。優遇税制制度などをつくり、外国人への日本語教育を推進している企業にメリットを付与することが大切ではないかと思ひます。会議の場に引き出すためにも。
- ・ 現在、企業での日本語教育を進めています。ボランティアにも所属しておりますが、行政手続きや生活での困り事が多いので、行政が出している情報の窓口を改めて知りたいと思ひました。
- ・ 子どもへの日本語支援、学習支援、進学、就職、キャリアに対する支援。
- ・ 前回の藤田（螺子工業株式会社）さんの素晴らしい事例はとても参考になると思ひました。どのようにするといいのかという例をもっと見せていただくと良いと思ひます。実は前回の議事録（藤田さんの例）をある企業の係の方にお知らせしたことがきっかけで、企

業内に日本語教室を作っていました。実習生の方に育ててほしい、育てたいという会社もあると思います。良い例を教えてくださいと嬉しいです。

日本で仕事をしている外国人に対して日本語のセミナーか教育のガイドを実施すればいいと思いました。

もっとレベルの高い話がしたかった。パネルの方が話が長すぎる。ベルを鳴らして知らせる等の対策が必要ではないか。

5 回答者様について教えてください。

市町村職員	6
市町村国際交流協会職員	0
民間、NPO 団体等	6
ボランティア・個人	18
企業関係者	3
その他	6

【その他】学生

おわりに

今回のタウンミーティングを通して参加者の皆様からいただきましたご意見は、今後関連する施策を進める上で参考にさせていただきます。改めて、参加して下さった皆様ありがとうございました。

あいち多文化共生タウンミーティングは、「愛知多文化共生推進プラン 2022」の重点施策の一つで、毎年3回開催することとしております。日頃、多文化共生に関心を持って活動していただいている方も、そうでない方も、どなたでも参加していただくことができます。今年度は残り1回開催をします。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



愛知県多文化共生シンボルマーク

多文化共生の社会づくりについて広く県民に親んでもらうため、2013年度に決めました。